



谷口 雅浩 議員



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

児童生徒の登下校時における さらなる安全確保を

北川教育長

地域一丸となって安全意識を高め 積極的な防犯活動の推進に努める

□質問・谷口議員
4月下旬、比布中央学校では前期課程の児童と後期課程の生徒が合同で「下校訓練」を行っています。自宅のある方面ごとにグループを編成し、上級生が下級生を気遣いながら安全に集団で下校する方法を身につけました。

そして、町内駐在所や町交通安全指導員により交通安全教室も行われています。

町では、通学路の安全性を高めるため「横断歩道や信号機の設置」「歩道の整備や拡幅」「街路灯の設置」等を実施しています。

しかし、比布中央学校前では片側しか歩道が設置されていない現状があります。

また、関係機関と連携し、防犯教育の充実を図ったり、パトロール、街頭指導などが行われていますが、日常的な対策としては不十分と感じます。

そこで、次の2点について教育長に伺います。

(1)これまで以上に児童生徒の安全確保を行うため、比布中央学校前道路両側に歩道を設置する考えはありますか。

(2)不審者対策の一環として、地域住民の協力を得ながら、子どもたちの見守りを行うような取り組みは考えられないでしょうか。

■答弁・北川教育長
1つ目のご質問については、旭川道路事務所、旭川建設管理部や旭川中央警察署などで構成する「比布町通学路安全推進会議」の中で、学校前道路両側に歩道の設置をする議論がされましたが、片側が私有地ということで歩道設置には至りませんでした。

2つ目のご質問については、本町では多くのお店、事業所や個人宅に「子ども110番の家」として、危険に遭った子どもの一時的な保護や警察への通報などのご協力をお願いしており、子どもたちが安心して利用できる環境の確保に努めたいと考えています。

また、地域の皆様が、子どもたちや地域へ少しでも意識を向けることで、登下校時の「見守る目」や通学路の「危険箇所の発見」を増やすことにつながりますので、登下校時間帯に合わせて、外に出て花に水やりをする、家の前で掃き掃除をする、犬の散歩をするなど、何かをされながら日常的に子どもたちを見守っていただきますよう、広報紙やSNS等を通じて啓発活動にも積極的に取り組んでまいります。

□谷口議員 通学路での交通事故は歩道の未整備が要因の一つとされています。

■北川教育長 学校前道路両側の歩道の設置について、比布町通学路安全推進会議の中で取り上げていくことは可能だと思います。

□谷口議員 不審者対策として、SNSを持たない方にも防災無線等で周知をしていただき、協力を求めることができますと思いますが、素早く行動できると思いますが、いかがでしょうか。

■北川教育長 防災無線の活用範囲について、防災無線を利用して子どもたちの見守りが可能なのかどうか検討させていただきたいと思っています。

また、広報紙やSNS等で、子どもたちの見守りについてお願いをさせていただきたいと思っています。



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

「子ども議会」で感じた いちごに対する想いと未来

村中町長

子どもたちの意見を励みに 「びっぷいちご」の継承・発展に尽力する

□質問・八巻議員
私は昨年と今年の2回、子ども議会に立ち会い、子どもたちの比布町に対する想いや比布町の未来、また現状に対する提言などを聞かせていただきました。

そこで大きく感じさせられたのが、比布のいちごに対する子どもたちの想いです。いちごの商品化、いちごのイメージ戦略など、子どもたちはいちごをイメージとした比布町の未来を私たちに見せてくれました。

しかし、現在は若い農業者に農地が集まり、いちごの作付けに手が回らない状態であり、また手間がかかるわりに収入が限られていたり、観光農園、いちごの作付け、両方とも少なくなるばかりです。

そこで次の2点について町長に伺います。

(1)遊湯びっぷを道の駅にできないか。

(2)町内の家庭菜園でいちごを作ってもらい、道の駅で販売できないか。

町長は以前、遊湯びっぷを道の駅にすることは、それほどハードルは高くないとおっしゃっていました。それならば、日本一小さな道の駅を作り、米、各種野菜、いちごをイメージしたグッズなど、夏の間だけでも販売スペースを作り、各家庭で作ったいちごや余剰野菜などを持ち寄り、販売されてはいかがでしょうか。

■答弁・村中町長
子ども議会の概要については毎年報告を受けており、いちごの印象を強く待たれている子どもたちが多く、「いちごっ子」の素晴らしい発表からも、改めて100年続く「いちごのまち」の歴史をこれからも繋いでいかなければならないと思っています。

(1)について、遊湯びっぷを道の駅とするためには、トイレや浄化槽などの増築工事が必要となりますが、新たな集客策として大変期待ができるものと思います。

一方、全国の多くの道の駅では車中泊利用者の対応に苦慮しており、遊湯びっぷは宿泊施設であり、キャンプ場も隣接していることから、道の駅にすることによって遊湯びっぷの運営としてはマイナス面もあると考えています。

しかし、町内には、いちごをはじめとする町の特産品等をPR・販売する場が不足しているとも感じていますので、道の駅に限定することなく、新たな地域振興の場の創出を検討します。

(2)について、直売所で販売するいちごは、食品としての安全性と生産履歴に透明性が求められることから、農薬使用や栽培管理の内容について「栽培履歴」を記録・提出することが必要になるなど、販



■村中町長 農産加工室については、不特定多数の方が利用していることから、商品を製作することはできないことになっていますが、試作品としては自由に使っていたことができますので、加工室を使って試作品などを作り、商品化のきっかけとなればありがたいと思います。

■八巻議員 農産加工室で特産品開発を行い、遊湯びっぷで販売すること、比布町のPRにつながるとは思いますが、町長の考えを伺います。



八巻 良博 議員